

令和5年度第1回松戸市公共施設再編整備推進審議会 議事要旨

日時：令和5年10月31日（火）14：00～15：15

場所：オンライン会議

出席者：柳澤 要委員（会長）、池澤 龍三委員、村山 顕人委員、小川 早苗委員、
渋谷 寛之委員

（欠席： 藤村 龍至委員（副会長））

事務局：伊東 朱美（総合政策部長）、弓木田 誠（公共施設再編課長）、
柳原 宏昭（公共施設再編課主査）

○議事

- 1 松戸市公共施設等総合管理計画の改訂について
- 2 その他について

1 松戸市公共施設等総合管理計画の改訂について

事務局より、「資料1：松戸市公共施設等総合管理計画（改訂版素案たたき台）へのご意見と対応」、「資料2：「松戸市公共施設等総合管理計画（改訂版素案たたき台）」について説明を行った。

<主な意見>

松戸市公共施設等総合管理計画（改訂版素案たたき台）

第3章 管理に関する基本的な考え方について

- 公共施設の費用試算について、試算する際に具体的にどの建物を改修、更新するといった元のデータはあるのか。その情報はどこに書いてあるのか。
→ 第1期の個別施設計画で各施設の取組を定めており、それを積み上げた事業費をベースに、実績を加味するなど時点修正を行ったもの。
- 公共施設の費用試算のグラフでは、令和10年度の事業費が他の年度と比べて急に上がっている。
第2期の令和11年度以降も令和10年度並みで推移するなら、今のうちに考え方を整理しておいた方が良いと思う。
→ 本市では庁舎整備と焼却施設の大型事業があり、令和10年度は焼却施設の解体などが試算に含まれている。大型事業が終われば、今後はこれと同レベルの大きな施設整備は当面無いと認識している。
- 費用試算について、インフラ施設は令和20年度まで、公共施設は令和10年度までとなっている理由は。
→ インフラ施設については各施設のインフラ長寿命化計画（個別施設計画）の記載に基づき費用を積み上げて試算している。公共施設は令和10年度までの第1期個別施設計画しが計画が無い場合、令和10年度までとしている。
- 自治体DXの話は計画の根幹に関わると思っている。
自治体DXで実務が変わっていく流れの中で、ハコモノの抜本的な見直しに関わって

る。個別施設計画を実際に進めていく中で、自治体DXをどう活用していくかが鍵となる。

公共施設全体に関わることなので、個別の施設毎のカテゴリーにこだわることなく進めることが大切だと思っている。

- 公共施設の費用試算について、建設資材の高騰が大変な状況で物価上昇や人件費の上昇もあるので、コスト計算は5年先、10年先でさえ大きく変わっている可能性がある。長期的な視点も大事だが、まずは令和10年まで、自治体DXも活用しつつ注意して進めなくてはならない。
- 長期的な視点を持つことは大変重要と考えているが、先ずはこの10年、次の10年と、限られた予算の中で次の世代に大きな負担を残さないように進めていきたい。
- コスト的なものは変動があり、特に昨今はコストが大きく上がっている。今後どうなるのかは分からないが、コストをどう抑えていくのか明確にしていけないといけない。

第4章 計画の推進について

- モデル地域については、取組を一般化させ他の地域でも展開していくことが重要。そのためにどのような支援が必要なのか、そこまで考察できると良い。
- モデル地域については、今までこういったことをやりただけにならないよう、モデル地域の取組をもっと展開していくとか今後の方向性を示せると良い。
- 小金原でのモデル地域の取組を成功事例として、横の展開を検討できればと思っている。
- 小金原地区会では平成29年にまちづくり部を発足させ、小金原地域全体に係る問題等に積極的に取組んできた。ハコモノでは無いが、小金原公園の改修工事にあたりワークショップが開催され、小金原地区会まちづくり部や、一般の市民、市の担当課が参加した。改修工事後の公園は凄く評判が良く、ワークショップ等の市民参加の意識が高まっているので、モデル地域に係るワークショップを今年度中に開催したいと思っている。

参考資料について

- 過去に行った対策の主な実績の新たな施設整備として、令和3年度に21世紀の森と広場の整備が掲載させているが、令和4年度にも新しい遊具等ができているので、それも含めた記載に直した方がいいと思う。
- 担当課と協議して記載内容を見直す。
- 上記意見を踏まえた修正を行い、会長一任という形で取りまとめたうえ、策定に向けた手続きを進めるということによりか。
- (各委員) 異議なし

(以上)